

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600337		
法人名	社会福祉法人 栄幸会		
事業所名	きたうえファミリー		
所在地	静岡県三島市徳倉1148-2		
自己評価作成日	平成22年3月5日	評価結果市町村受理日	平成22年5月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限公司 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年3月30日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広くて明るい日の光が差し込む60畳のフロアーには、畳コーナーを設置、利用者様は自分の好きな思い思いの場所で自由にくつろいで過ごされています。  
各居室には、トイレ・浴室が設備され、他の方への気兼ねがありません。  
社会福祉法人 栄幸会の下併設の特別養護老人ホーム・ディサービス他他部署との行事やクラブ活動を通して利用者様どうしの交流があります。敬老会・クリスマス会はディサービスと合同で盛大に開かれています。『お一人おひとりを尊重した介護』の理念の基、全職員は介護にあたっています。  
今年度は全室、スプリンクラーの設備が完了しました。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

このホームは三島駅の北北東約3Kmの閑静な住宅街の、日当たりの良い山懐に抱かれている。法人「栄幸会」の多数の併設施設があり、福祉に賭ける法人代表の卓越したリーダーシップの下、統括主任(ホーム長)・職員が相互に信頼・尊敬し合い、利用者の介護に当たっている。運営・行事面においても施設間のノウハウが共有化されており、連携が図られている。ハード面では、60畳のリビングの高い天井の窓から陽光が差し込み、全ての個室にバス・トイレ・手洗いがあり、職員の見守りの下に自立支援に役立っている。ソフト面では、今まで利用者の転倒0・この1年職員の退職0は印象的だった。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員は理念の持つ意味を良く理解しており、日々のサービス提供の場においても理念の共有化とその実践が見られる。	ホーム独自の理念『・一人おひとりを尊重した介護・』が随所に掲示され、ホーム便りにも毎号掲載し、自他共に理念の共有化を図り、日々の介護の実践に役立てている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の生活の中でのボランティア様との交流・散歩・買い物時のふれあい声かけが自然に出来ている。行事等への近隣への参加の呼びかけ。近所の方の継続したボランティアのお手伝いがある。	日々の散歩・買い物時等の触れ合い、ボランティアの継続的なお手伝いがある。ホーム行事のきたうえ祭・イトーヨーカドー出張販売には多数の近隣住民の参加があり、日常的な相互交流が見られる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括主催の「認知症家族を支える会」に相談員として参加。認知症サポーター養成を取得要請があると出かける。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者様・施設・職員など現況報告をしている。議題上上がった内容については全職員へ報告統一実行につなげている。	偶数月の水曜日に着実に開催されている。家族・地域の代表、市の相談員が参加して活発な意見交換が行われている。徘徊対策に「模擬バス停設置」のアイデア等が活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月お便りを出しながら顔を出している。行政からの部会には積極的に参加。些細なことでも気軽に相談に乗っていただいている。	毎月のホーム便りを届けながら、意思疎通を図り、市のグループホーム部会での勉強会・意見交換・交流等が役立っている。相談員の適切なアドバイスもあり、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束禁止0を宣言しており、職員は周知徹底している。問題になることに対しては、ただちに職員間で話し合い対応している。法人として拘束委員会を設けている。	法人として拘束委員会があり、拘束禁止0を宣言し、全職員に徹底している。問題だと思われる利用者の行動にも、必ずその理由があると捉え、受容に徹している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修に参加、勉強会にて職員間で周知徹底。問題に関しては、職員間で話し合い相互理解に努め声を出し合うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は研修や勉強会に参加している。すでに利用されているご家族もいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時には文書にてお知らせご家族様からの承諾書をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年2回開催、家族側からの屈託のない意見を出し合っていた。3者面談をし職員・家族相互のへだたりを無くすよう話し合いの場を設け、内容を全職員が周知徹底している。	利用者や家族の意向は、日常のやり取りの他に、年2回の家族会及び年1回の3者(利用者・家族・職員)面談を実施し、相互に理解し合って運営に反映させている。3者面談は、年2回も検討されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は日に何度となく顔を出している。利用者・職員と積極的に会話をしている。	法人代表は頻繁に顔を出し、ホーム長と共に利用者や職員の声にも傾聴し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人一人をしっかりと把握している。職員との会話からも不安の解消に協力を惜しまない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修参加には、勤務体制に影響のない範囲で積極的に参加を呼び掛けている。法人内には各委員会を創設してあり委員から全職員へと伝えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	三島市グループホーム研修会を3か月ごとに開催、意見交換や勉強会を開き相互の向上に努めている。法人として積極的に研修参加の受け入れをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の生活の中での小さな変化を見逃さずに察知安心して生活できるように職員間で話し合い申し送りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の事前面接・入居時・面会時・面談等、ご家族との会話に努め、全職員へ伝達している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・ご家族様の要望・意見をしっかりと聞き入れ、職員間で話し合いをしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の一人一人が出来る事をしっかりと見極め、職員は周知、ともに寄り添い本人の出来る事を一緒にして行く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には些細なことでもお知らせ、ご家族の協力の下、安心して生活が出来るように心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族の協力の下、利用者様が安心して生きいきと生活できるように面会・外出・外泊等利用者様の希望が叶えられる様に努めている。	昔の友人の来訪がたびたびある。家族の理解と協力の下に、出掛けたい希望は全て叶えるよう努めている。誕生日等には、職員と個人的な外食や飲酒にも応えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は常に利用者様の状態・表情に目を向け、利用者様同士の衝突・孤立の無いように配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後もご家族様と連絡を取り合っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の希望や意向を大切に、出来る希望・意向に添える介護やご家族と相談ご協力を得ている。	入所時のアセスメントだけでは把握しきれない部分があり、その後の観察や3者面談で補っている。それらを年1回センター方式でまとめなおし、真の意向や希望の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接や利用者様の希望、ご家族からの情報をもとにできる限り添えるようつとめる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の利用者様の状態をしっかりと把握また、その日の体調や様子を観察している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様の状態変化に合わせ、ご家族と連絡を取りながら作成。	入所時のアセスメント等で課題を把握し、ケアプランに反映している。ニーズに対する生活援助記録(フォーカス・チャートンク:先進的記録法)を作成し、状態変化時や毎月のモニタリングで、現状に即したプランに更新している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々利用者様の些細な状態変化を見逃さず、記録・申し送りをしっかりと取り全職員が共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	固定概念することなく、その時々状態に合わせた介護に取り組み職員間の申し送り共有できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それぞれのボランティアの協力を得ながら楽しく生活できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の協力を得ながら本人のかかりつけを受診している。	施設の提携医の他、利用前からのかかりつけ医での医療が受けられるよう、家族と相談して通院介護の支援もしている。施設の提携医は毎月2回往診し、24時間対応の医療支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師不在であるが併設の看護師と相談アドバイスを得ることができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合、こまめに病院に行きながら早期退院に向け、担当医師や看護師と退院後の生活がスムーズにいくように話し合いの場を設ける。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族から終末ケアに関するアンケートを取っていく。重度化した時点においてご家族の意向(本人)を尊重、施設内での看取りを希望されたら嘱託医(主治医)との承諾書かわし、併設看護師の協力の下全職員にて取り組んでいく。	ターミナルケアについては施設の職員全員で何回も研修し、看取り対応の基本指針を確認し、本人や家族、医師とよく相談し同意書も受理している。本人や家族が希望した場合、職員間で情報共有して取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修・内部研修を定期的実施勉強会をして行く。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災訓練を実施。年1回の施設全体での防災訓練ほか防災委員による防災プロジェクトに合わせた訓練を実施。	施設での災害訓練は毎月実施し、職員は役割分担も把握している。いち早くスプリンクラーも取り付けしている。非常災害用備蓄は3日分用意している。近隣との連携はこれからである。	時節柄、今進められている近隣との協力関係づくりを着実に進められたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人に添った介護に努めている。職員間で接遇マナーの勉強会を実施。	職員は接遇マナーを学び、利用者一人ひとりの人格を大切に、本人の気持ちを理解するよう配慮している。個人情報事務所に保管して適切に取り扱い、写真掲載の承諾等にも取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活から利用者様の表情や言葉の中から想いをくみ取りかなえられるように担当職員と話し合いをもつ。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設行事以外はその日の利用者様の状態を重視利用者様に合わせた介護を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の身だしなみやおしゃれの大切さを強調し、衣服のコーディネート・女性はスキンケアやメイク男性は髭剃り等利用者様と一緒に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様が出来る手伝いをさせていただいている。食事の下準備・後片付け他利用者様の習慣となっている。	献立は利用者職員と一緒に計画し、下準備や後片付けも行なっている。食事は「いただきます」の声で、明るく楽しい雰囲気であり、調査当日は全員が完食であった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取の把握・食事量・形態等またその日の状態を吟味しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアの実施、利用者様に合わせたケアへの対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄委員の下、利用者様一人一人に合わせた排泄用品・パターンを決めている。	トイレは各部屋に備え付けられており、自立支援に役立っている。職員は情報を共有して、利用者がトイレ使用したときはプライバシーに気をつけて的確に把握しチェックしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事メニュー(野菜類・乳製品・果物他)の創意工夫。各居室にトイレが設置しているので気兼ねをすることがない。排泄意識が無い方は排泄表のチェック表の確認をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ここの浴室であるが自力にて入浴される方でも必ず声かけをしていただく。利用者様に合った入浴時間と介助見守りをし入浴を楽しんでいただいている。	お風呂は各部屋に備えられており、利用者は週平均3回は入浴している。自力入浴者はその際職員に連絡し、職員は着替えやバスタオルを用意しながら事故防止に備え、それとなく見守っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態に応じ休憩できるように介助。また思い思いの場所でくつろいで過ごしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は一人一人の服薬を把握している。薬の変更時全職員が周知徹底するように連絡申し送りを繰り返している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご家族と相談了解のもと利用者様の楽しみとなる嗜好品の調達、また食べ物等に関しては食べきれる範囲と職員への声かけで楽しんでいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	担当職員との個人外出や買い物外出また利用者様の希望は家族と連絡を取り合いかなえられるよう配慮、また家族との外出を積極的に応援している。	日常の散歩、買物や食事の個人外出、桜見物等の支援が行われている。施設では大手スーパーのイトーヨーカドーと協力して、年2回施設内でお店を開き、利用者が自由にお金を使い買い物している。家族も参加し好評である。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は利用者様・ご家族の責任のもと所持をして頂いている。外出での買い物については事前にご家族に了解を得、施設立て替えのもと利用者様に自由に買い物をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	併設施設に公衆電話を設置自由に使用できる。利用者様自筆の年賀状をだしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が安らぎ安心できる室温・明るさに配慮。季節感が肌で感じられるよう戸外での活動や工夫をしている。(散歩・草花・野菜)	共有空間は広く明るく、天井が高く、清潔感にあふれている。食堂や壁にはホーム行事の写真、利用者が書いた絵や書き物の作品が飾られ、季節の花が穏やかな環境を整えている。各部屋の入口には、色とりどりの暖簾がかかっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室はもちろんフロア内においても利用者様の好きな場所で自由にくつろいでいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室内は 利用者様ご家族に任せ、生活の場と安らぎのある空間となるようにし、担当職員は家族や利用者様と連絡を取りながら衣類・寝具他の入れ替えをして頂いている。	個々の部屋にはそれぞれの家族と相談された家具、備品、テレビ等が持ち込まれ、使い慣れ馴染み深いものに囲まれていた。利用者も居心地よさそうで、明るい感じであった。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の出来ること・本人の意思を尊重し選択できるよう職員は見守り・一緒に行動し日々の生活においてサポートしている。		